

令和6年度 学校評価報告書

学校名	三田市立広野小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

魂みがく 学びにはげむ 心をつなぐ 広野っ子の育成

2 今年度の学校重点目標

- 豊かな人間性や社会性を培い、ともに伸びる姿勢を育む(共生社会)
- 基礎・基本の定着を図り、確かな学力をつける(子どもの可能性を拓く)
- 学校全体で協働して授業改善を進める(教職員の資質・指導力の向上)
- 家庭や地域と課題を共有し、子どもの健やかな育ちを図る(「コミスク」を充実)

3 総合的な自己評価

「学校生活や学校行事が楽しい」という児童は毎年90%に届く高評価である。自己肯定感に関する児童の数値も高い。一方、不登校傾向やサポートルーム利用児童が増えている。また、考えを発表したり、本を読んだり、家で宿題以外の学習をする児童が70%を切っている。今年度、課題を共有し全教職員で取り組めた一体感はあるので、継続することで児童の学力向上に繋げたい。さらに、児童の基礎学力の向上と家庭での生活・学習習慣および読書習慣の確立については課題が残る。これは小中連携でも喫緊の課題であるとの認識で今後具体策を講じる。

4 総合的な学校関係者評価

小学生は毎日宿題だけしていればいいと思っていたが、この会に参加して、自然環境や社会生活の中で、自分が興味関心を持った「？」や「！」を調べている様子を見取って、認めたり、寄り添ったりすることで「学ぶことが楽しい！」と思える子どもに育つのだと分かった。コミュニケーション能力や対話力は、社会生活をする上で大切になるので、授業の中で根拠を示しながら「筋道を立てて伝える」ことを学ぶ姿を参観したり、その取り組みの一端を紹介してもらえたりできて良かった。学校でしっかり主体的対話的で深い学びをしてほしい。

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育目標 学校運営	「魂みがく」「学びに励む」「心をつなぐ」学校の具現化を図る教育活動ができています。	「よくできた」20%「できた」80% 「学校教育目標についての取り組み」について、保護者の肯定的評価は89%(昨年比4%↓)であった。	・教育目標を反映させた学年目標を設定し実現に努めることを継続。 ・「ことばを使って豊かに表現する子どもたちの育成」をテーマに、国語科を中心とした授業改善に取り組み、思考や表現力の育成に励む。 ・生活・学習習慣の充実のための方策を小・中学校連携して取り組む。	・学校だよりが子ども目線で書かれてあり、子どもたちにどのような声かけをすればよいか分かりやすい。 ・掲示物には、指導の過程や意図が提示され、作品を見る目を養うことができる。 ・放課後運動場でたくさん子どもたちが遊んでいる姿は、微笑ましい。ゲーム等を自制できるように家庭の協力が必要。
	安全を確保し、教室・廊下等が学びの場として整備され、掲示物の環境が整えられている。	「よくできた」20%「できた」60% 「子どもの安全のための取り組み」について、保護者の評価は91%(同6%↓)であった。		
教育課程 学習指導	子どもたちは意欲を持って学び、ICTを活用して、教科の学びの本質に迫ることができている。	「よくできた」20%「できた」40% 「子どもの基礎基本の学力」について、保護者の評価は78%(同6%↓)であった。	・ICTを学びの道具にして使い方を教え、自分の学習ペースに合った学び方が見つけられるよう継続指導。 ・自ら問いを立て、議論し、提案し、対話や合意を図る学びを増やす。 ・総合的な学習のカリキュラムマネジメントとして、地域の良さを学び地域の方々との交流ができる学習を継続していく。	・来年度から、学校一括タブレット保険に加入すること、個人端末がさらに活用されるよう期待している反面、使用ルールや家庭での使用時間などの注意喚起を願う。 ・「筋道を立てて伝える子ども」の育成をめざして取り組まれていることは、社会にも役立つ。是非、継続してほしい。 ・地域でできることは協力するので、要望や困ったことも相談してほしい。
	校区に対しての愛着と誇りを持つとともに、学習活動の中で地域の素材を取り扱うことができている。	「よくできた」11.1%「できた」77.8% 全国学力学習状況調査の「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に6年生は87.5%が肯定的であった。		
人権教育 生徒指導	人間尊重の精神に基づき、お互いを認め合う心や自然を愛する心が育まれている。	「よくできた」20%「できた」80% 「学校に行くのが楽しい」という児童は、87%(同率)であった。	・夏に研修を重ね、違いを認め共に生きようとする児童の育成に努める。 ・「子どもは友達と仲良く生活をしている」は97%(同2%↓)である。肯定的評価ができない保護者がいることを意識し、「学校いじめ対応チーム」で早期発見・未然防止の徹底を図る。 ・「すすんであいさつをしている」児童は、87%(同12%↑)と大幅増である。児童会活動など児童を巻き込んだあいさつ運動は、地域の方にも好評であった。	・生活委員会のあいさつ運動2週間は、絶大な効果があった。その後も、あいさつしつづけてくれて地域の皆が喜んでいる。 ・普段(月曜日から金曜日)、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)を1日当たり3時間以上する6年生が37.5%いるとのこと、地域でも気になっている。基本的な生活習慣について2%↓とのことだが、家庭での見守りを啓発したい。 ・小・中学校連携して不登校傾向やサポートルーム登校児童対策をお願いしたい。
	あいさつ、早寝、早起き、朝ご飯などの基本的な生活習慣を整え、学習習慣が身についている。	「よくできた」10%「できた」80% 「家庭での生活習慣」について、保護者の評価は83%(同2%↓)であった。		
	「学校いじめ防止基本方針」が機能し、いじめの予防・早期発見をすることができている。	「よくできた」20%「できた」70% 「一人ひとりの人権が尊重される教育推進」について、保護者の評価は91%(同4%↓)であった。		
保護者、 地域住民等 との連携	学校だよりやホームページ等を活用して、学校からの情報を積極的に発信することができている。	「よくできた」50%「できた」50% 「必要な情報を分かりやすく発信している」について、保護者の評価は93%(同4%↓)であった。	・情報発信については今後も学校での教育活動をできるだけ詳しく発信することに努める。 ・保護者、地域団体の方々からの積極的な支援が得られるという恵まれた環境を存分に生かしながら、子どもがよりよく育つ地域のまち作りについて連携を進める。 ・学校発信の学校支援ボランティアを積極的に募り、支援者を増やす。	・現在十分な情報発信をいただいている、保護者の要望として「もっと」という思いも分かるが、無理のない範囲で学校での取り組みの意義を発信していただきたい。 ・アンケート回収率が10%(18人)増えたとのこと、学校やそこの教育に目を向けようとする保護者が増えたことは、喜ばしい。今後も変わらず、地域に開かれた学校であってほしい。私たちも学校支援ボランティアとして、学校教育活動への協力を続ける。
	地域や小・中学校の教職員の連携協力による授業を充実させ、課題を共有し同じ方向で子どもを育もうとしている。	長坂中学校の授業研修会案内が届くようになり、小中間でのオンライン授業も実現した。意見や考えを発表することが苦手で、家庭学習や読書習慣の確立が明確になった。今後、共通の具体的な手立てを決めていく。		

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
12月	・児童、保護者、地域へのアンケート等の実施
1月	・教職員による学校評価
3月	・第3回学校地域運営協議会開催
通年	・教職員による学校行事ごとの振り返り

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
5月	・第1回学校地域運営協議会開催
11月	・第2回学校地域運営協議会開催
2月	・第3回学校地域運営協議会開催
通年	学校・地域行事への参加及び啓発(学校だより・ホームページ)

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
4月	学校だより ホームページ	今年度の学校教育目標や指導方針について	○
3月臨時号	学校だより ホームページ	保護者、児童アンケート結果及び、学校関係者評価委員会の意見を学校の考え方と共に公表	○

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います